

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	3271600607		
法人名	有限会社 三幸		
事業所名	グループホームさくらんぼ1ユニット		
所在地	出雲市斐川町今在家403-1		
自己評価作成日	平成30年1月25日	評価結果市町村受理日	平成30年3月7日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/">http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	株式会社 コスモブレイン		
所在地	松江市上乃木7丁目9番16号		
訪問調査日	平成30年2月13日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

ご利用者お一人お一人が安心した気持ちの下、日々生き活きと生活して頂ける様、家事への参加、屋外散歩、外食他、職員と一緒に関わり行う事で生活を共にしている感覚をお互い持ちながら日々支援させて頂いている。又、利用者お一人お一人と対する尊厳も大切に、支援に取り組んでいる。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

認知症の方に加え、精神面が不安定な方が多いため、介護度の割に介護の手間を要するよう見受けられるが、心療内科や精神科の受診に付き添い、日頃の様子を細かく伝え指示を得ることで、安定するように努めている。理念の中にある和を大切にという思いで、職員間の連携を良くして、利用者ができるだけ落ち着いて過ごせるようにという思いが伝わってきた。開所して丸11年を迎えているが、平地で広々と見晴らしの良い環境にある半面、隣近所が遠く近隣の関わりを持つことは難しい様子。月1回の外食行事や日常の外出を増やすよう取り組まれているので、今後に於いても、運営推進会議等の参加者や地域の施設等への発信を広げることで、外部協力者を増やすよう取り組み、地域密着型施設としての役割に繋げていただきたい。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	玄関に理念を掲示し、見るようにしている。又、会議の際、職員で唱和する等し、実践に繋げるよう努めてきた。	開所当時理念を継続。人との和、利用者同志の和、利用者と職員の和、職員同志の和、とにかく和を大切にすることを会議で話しており、集団生活の中でも個を見つけて、利用者の尊厳を第一にどうしたらいいかを考えるようにしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地元コミセン、図書館との交流や地元の農業ファームから野菜購入したり等、小さい事からだが交流に努めてきた。	地元コミセンに月に1回喫茶に出かけている。図書館からは紙芝居、手品、昔懐かしい生活道具の紹介などの交流がある。隣接のデイサービスの敬老会には保育所の訪問があり、一緒に交流している。介護相談員の訪問も受け入れている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	積極的に地域の人々に向けてはこなかった。今後の課題であると考えている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	意見については、真面目に受け止め、今後のサービス向上に活かしてきたと思っている。	利用者家族、市、高齢者支援センターから参加を得て定期に開催。地域代表者は声掛けするも毎回の参加には繋がっていない。利用者の状況、行事の様子等を伝え、参加者から意見を得たり、情報提供を受けている。	出来るだけ多くの関係者の参加で会議を開催することで地域との関係作りに繋げていただきたい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	密ではないが、月に一回の入退所報告や、不明な点についてはすぐに相談してきた。	運営推進会議には毎回参加があり、意見を得ており、市の方には毎月入退所状況を報告している。生活保護利用者が4名あり、2か月に1回状況報告を送っているが重度化していることもあり今後について意見交換の必要性を感じている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束については全職員が周知しており、日中はユニット出入口の開錠、及び正面玄関については、悪天候ではない限り開放してきた。	日中は施錠せずいつでも外に出られるようになっている。出た場合は職員と一緒に歩くようにしている。外部講師を招いて、施設内研修も行っており、拘束のないケアを実践している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	過去研修も重ねてきており、虐待についての理解はできており、防止できていると思う。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	過去に研修の機会も数回設けてきた。実際、入所者の中に後見制度を利用していた方もいらっしゃる、職員の中には後見制度についての馴染みはあると言える。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている			
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議や、面会時、家族への状況報告の際等に意見をお聴きするようにしている。	利用者の意見が出やすいようにメンバーを考慮して月に1回ケーキ喫茶を開いて意見を聞くようにしている。家族には2か月に1回担当より医療面、近況報告等を伝え、4か月に1回は行事写真入りのお便りを出し意見を得ている。	近況報告や便りの内容を検討することで家族関係者との関係作りに繋げていただきたい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている		年2回のボーナス支給が現金の手渡しになっており、その際に1人1人と面接を行っており、仕事だけではなく体調面、悩み等を聞く時間としている。毎月の会議の場でも意見を聞くようにしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている			
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている			
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご利用者さんとの会話の中で思いを発して下さる事があり、その事に対して傾聴受容し、重要な情報として本人の安心・楽しみにつながる様努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族さんの面会時に現状の状況を報告している。ご家族さんの意向も、都度お聞きしながら良い関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご家族さん、ご利用者さんが何を望んでおられるかを会話・行動の中で把握しながら実践に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	洗濯物干し・たたみ、食器洗い・拭き、調理等、日々の家事を中心に個々に役割を持って頂きながら日々暮らして頂いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	問題が生じた時、又、病気や怪我等おこった際には、必ず相談報告し、ご家族と共に考え、方向性を決定している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの方の面会は大事にし、自室でゆっくりくつろいでいただけるよう配慮、又、離れている配偶者や知人からTELで様子を聞かれた際には本人にTELをつなぐ等の支援に努めている。	墓参りや自宅を見に行きたい等の思いを家族に伝え実現できるようにしている。施設内に理美容室がある為地元美容師さんに来てもらい、サービスを受けている。食材の買い物には地元のスーパーに出かけるようにしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員が橋渡しをしながら利用者さん同士会話が弾んだりしたが、中には集団生活が難しい方もいらっしゃる、その方には状況を見ながら関係作りに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている			
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人・ご家族から希望・意向を聞き取り、本人の望む暮らしが出来るように支援している。	入所にあたってはできるだけ情報を得るようにしているが、詳しい内容まで聞けないことも多く入所してから段々と聞くようにしている。家族関係が良好でない場合もあり、個々に合わせて話を聞くようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前に面接を行い、ご家族・前担当ケアマネジャーから話をよく聞き、ご利用者様のこれまでの生活環境についての情報を得ている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の状態変化を観察し、記録に残し、必要時カンファレンスを実施している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者1人1人の出来る事・出来ない事・一日の過ごし方等ケアプランを作成し情報を共有し、現在の状態を把握し介護計画を作成している。	カンファレンスで月1回モニタリングを行いまとめを6か月に1回記入している。現状報告を行い意見を得てから介護計画を作成するようにしている。家族により分かりやすいように、個別援助計画も作成し細かく説明し了解を得ている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の支援記録を残し、生活の様子をプランに照らし合わせながら記録し、職員がそれぞれ実践・見直しに活かせるようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	受診・買い物等、ご家族の付き添いが困難な場合は、施設長・職員が同行するなどの対応をしている。毎月一回の夕食、季節の良い日は外出を実施している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣からのぶどう狩りの招待(毎年)、地元コミセンでの喫茶、町内の図書館の「思い出語り」としての来苑、苑から地元の空港公園や飲食店へ外出している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月に一度の主治医の先生が往診に来て下さっている。他特変事等、家族さんに相談しながら適切な医療を受けて頂いている。	以前からのかかりつけ医を継続することもできるし、往診可能な施設の協力医を紹介することもできることを入所時に伝え決めてもらっている。心療内科や精神科の受診は職員が付き添い、様子を知らせ指示を得ており、状態の安定に繋がるようにしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	現場には看護師はいないが、何か特変あった時は必ず医療機関へすぐ上申し指示を受けている。(夜間も管理者を通し、必要に応じて医療機関へ上申・指示に従っている)		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院先の相談員を中心に、こまめに情報交換や相談に努めてきた。又、普段から地域にある病院の相談員とは関係作りに努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期にあたってのご家族さんの意向を把握し、事業所でできる事を職員間で共有し、常に利用者さんの変化に気を配るよう努めている。	本人もしくは家族の希望があり、継続して医療行為が必要でない場合に、協力医の往診を受けながら対応する形で看取りを行っている。今後できるだけ対応する意向を持っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	年に1回、消防署員さんに来て頂き、救急法の指導を受けている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に防火訓練を昼・夜の職員が参加し、その都度指導を受け、身に付けている。地域の協力体制は、以前2回地元の消防団の方々に防火訓練に参加して頂いた。	避難訓練を年2回行っている。消防署から来てもらい指導を受けたり、緊急通報装置の訓練や消火器の使い方の訓練も実施している。近隣に民家が少なく外部からの支援は受けにくいですが、地元の消防団の方には建物を見てもらい協力をお願いしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	なるべく利用者様を尊重し、話しかけているが、時々友達言葉を使って話している時もある。	個人的に利用者に対する声かけが不十分に思う場面もあるが、職員全体のこととして捉え、どのようにしていくかを会議の場で話すようにしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	お茶会時には何個か種類を出し、好きな物を選んでもらう、入浴時も服を自分で選んでもらうようにしている等、極力場面・場面で自分で決定して頂ける様に支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている		施設の裏に大きい畑があり季節の野菜を栽培して調理に使っている。調理員を雇用しており施設内で3食を作っている。盛り付け、切ること、食器洗い等できる作業は一緒にしながら、それぞれのユニットでできた物を運んだり協力して食事を味わえるようにしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランス考え日々献立をたてており、野菜については苑で作った新鮮な野菜を豊富にお出ししている。毎食感想もお聞きし次の提供時に生かしている。水分量も摂取量に問題ありと思われる方については継続して計測して適量確保に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、1人1人に応じた行う場所や介助方法により確実に口腔清潔が保たれるようケアしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄の失敗を減らすため必要に応じ排泄チェックを行いながら定期的にトイレの声かけ、トイレでの排泄に努めている。	時間を見ながら誘導したり、自立の場合は確認したり個々に合わせた対応をとっている。紙パンツやパットの使用者が多く、尿量に合わせてパットを選ぶなど、不快にならないようにまたコスト面にも配慮するようにしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎朝、クロレラ乳酸菌飲料、バナナを摂取して頂いたり十分な水分を摂って頂くよう努めている。春～秋は屋外への散歩、又、冬期は苑内を極力歩いて頂く等努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴チェック表(洗体・洗髪・更衣等記入)を基に間隔空かないよう定期的(隔日毎等)に入って頂けるよう支援している。そして当日予定の方にはバイタル状況や本人の機嫌等も見ながら無理強いくなく適切声かけ入って頂いている。	毎日午前午後4、5人のペースで入浴している。家庭浴槽のため中に入れない場合にはシャワー浴で対応し、1対1で時間をかけただけゆっくり入れるようにしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	1人1人のスタイルに合わせ自由に居室・ソファ・自席などで休憩して頂いている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬されている内容の説明を各個人ファイルに綴じており、いつでも薬の変更・臨時薬が確認できるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個人の生活歴・趣味的な事を生かし1人1人に向けた活動ができるよう努めている。(例:編み物・習字・塗り絵・裁縫等)		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	利用者の状態に合わせ、散歩や外出・外食等定期定期に継続し利用者の気分転換につなげている。家族の希望で外泊や外出は自由にして頂いている。	春秋には花を見に出かけたり、近くの公園にお弁当を持って行っている。近所の神社やすぐ前に広がるチューリップ畑は散歩コースになっている。2つのユニットの間には広めのベランダがあり、天気のいい日にはそこでお茶をしたり、外気にあたる機会を多く持つようになっている。月1回外食にも出かけている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族さんの了解の下、職員が付添い利用者さんの希望に応じた衣類・日地用品の買い物をしたり、外食など行っている。直接本人からの支払いが可能な場合は、わずかではあるが、可能な限り行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	苑に電話がかかってきたら、ご本人につないでゆっくりお話して頂いている。又、年賀状を頂かれた方もおられる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関・リビングには生花や季節ごとのぬぐい絵画を飾ったりしている。又、ユニット・掲示板には季節を感じて頂ける内容で季節感を取り入れている。リビングは採光に気を配り、出来るだけ明るく過ごして頂けるよう配慮している。	施設回りは平地で広々としており、内部も広くゆったりとくつろげる空間になっている。デイルームには畳の部屋が広く、昼寝の時など横になることもできる。廊下も広く全体が見渡せる造りになっており明るい。窓からは花畑や裏には畑もありいつでも季節を感じることができる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングが広くワンフロアの中にテーブル席、ソファー、和室と3空間あり、思うところで過ごして頂いている。又、居室で過ごされたい時には思い思いに帰室され自室で適度に過ごして頂いている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居の際にご自分の使い慣れた物を持参して頂く様にお話しし、努めている。畳がある居室は、そこに座ったり横になって過ごされている等、各居室毎にその人らしい雰囲気の一部屋作りがなされている。	洋室だが畳を持ち込んでいる方もある。以前使っていたタンスやテレビなどを持って来たり、花や写真で部屋を飾り、1人でもくつろげるようにしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレ前に表示を書き示したり、トイレ内や廊下に手すりが設置され安全に配慮している。台所はアイランドキッチンでいつでも自由に流しが使えるようになっている。		